

**[成果情報名]** ビール大麦「アスカゴールデン」は、播種量減が多収のポイント！

**[要約]** ビール大麦新品種「アスカゴールデン」は、播種量をスカイゴールデン、サチホゴールデンより減らして 6.5～7.0kg/10a 程度、施肥量はスカイゴールデンと同程度かサチホゴールデンより 1 kg/10a 程度減らし、適期播種を行うことにより、品種特性が発揮され多収となる。

**[キーワード]** ビール大麦、二条大麦、多収、アスカゴールデン、播種量

**[担当]** 研究開発部・麦類研究室

**[代表連絡先]** 電話 028-665-1241、e-mail nougyou-s@pref.tochigi.lg.jp

**[研究所名]** 栃木県農業試験場

**[分類]** 研究・普及

---

## [背景・ねらい]

ビール大麦は契約栽培にて生産が行われており、工業原料と同様に計画的な生産を行わなければ、実需者のニーズに対応することはできない。新品種「アスカゴールデン」は 2015 年産から一般栽培が予定されているが、迅速な普及と高品質多収生産を図るため、栽培条件による品種特性の把握と、特性に応じた安定多収高品質栽培法を開発する。

## [成果の内容・特徴]

1. アスカゴールデンは、スカイゴールデン、サチホゴールデンと比較して、穂数が多い穂数型品種である。また、総じて整粒重はスカイゴールデンより多く、サチホゴールデン並みの多収である。（図 1）
2. アスカゴールデンは、播種量を減らすとさらに多収となる（スカイゴールデン、サチホゴールデンと同じ播種量では多収性が十分に発揮されない）。加えて、播種量を減らすと少肥でも標準施肥量と収量は同等となり、施肥レベルが低下しても標準栽培のスカイゴールデンより多収となる。（図 2）
3. 施肥量及び播種量を変えた栽培試験におけるアスカゴールデンの整粒歩合の変動係数（%）は 5.1 と、スカイゴールデンの 3.3、サチホゴールデンの 3.6 に比べて大きく、アスカゴールデンは整粒歩合が変動しやすい。（データ省略）
4. アスカゴールデンは、施肥量が多くなるに従い整粒歩合が低下する（図 3）。その結果、多肥にしても多収とならない（図 2）。
5. 施肥量及び播種量を変えた栽培試験におけるアスカゴールデンの粗蛋白質含量はサチホゴールデン並みである。また、その変動係数（%）は 6.1 とサチホゴールデンの 6.0 と同程度で、スカイゴールデンの 12.2 より小さい。（以上、データ省略）
6. アスカゴールデンは、播種が遅くなるとスカイゴールデン、サチホゴールデンと同様に粗蛋白質含量が高くなり、品質が低下する。（図 4）
7. 以上の結果から、一般栽培におけるアスカゴールデンの適正な播種量は 6.5～7.0kg/10a 程度、適正な施肥量はスカイゴールデン並みかサチホゴールデンより 1 kg/10a 程度減らし、適期播種を行うことにより、品種の特性が発揮され、高品質多収となる。

## [普及のための参考情報]

### 1. 普及対象

ビール大麦生産者。

### 2. 栽培上の留意点

その他の栽培に関する技術はスカイゴールデンやサチホゴールデンと同様で、基本的な栽培技術を励行すること。

[具体的データ]

穂数:	713b	667c	778a (本/m <sup>2</sup> )
整粒重:	47.1b	54.4a	52.1a (kg/a)



図1 施肥量及び播種量を変えた栽培試験における穂数及び整粒重の平均値

注) 施肥量:6, 8(スカイ標準), 10(kg/10a)の3水準、播種量:139, 161, 192(スカイ標準)(粒/m<sup>2</sup>)の3水準での2010~12年試験結果。表中のアルファベットの記述はTukeyの多重比較(P<0.05)で有意差がないことを示す。

整粒重(kg/a)

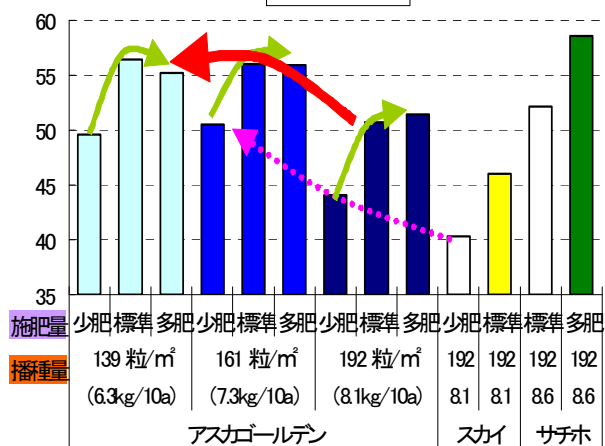


図2 施肥量及び播種量を変えた栽培試験における整粒重の結果

注) 施肥量及び播種量は図1と同じ。スカイゴールデン、サチホゴールデンは抜粋。

整粒歩合(%)

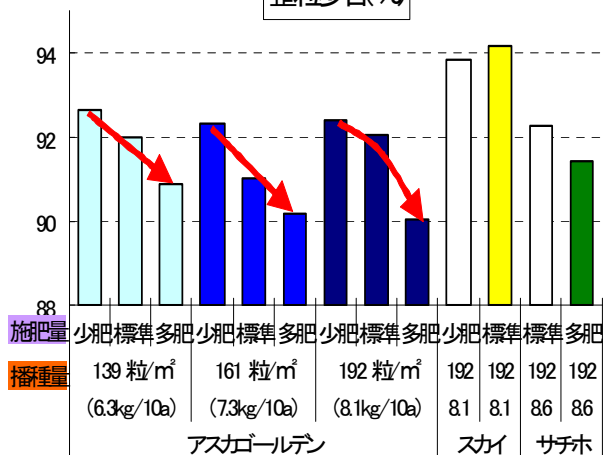


図3 施肥量及び播種量を変えた栽培試験における整粒歩合の結果

注) 施肥量及び播種量は図1と同じ。スカイゴールデン、サチホゴールデンは抜粋。

粗蛋白質含量(%)

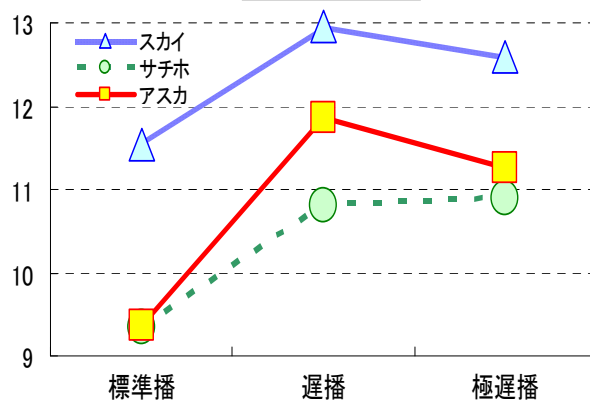


図4 播種期を変えた栽培試験における整粒歩合の結果

注) 遅播きは、播種適期より1週間、極遅まきは2週間遅い時期。ほ場は通常よりも粗蛋白質含量がやや低めとなるほ場データ。

[その他]

課題名: 縞萎縮病に強く、麦芽の溶けが適正なビール大麦の育成

予算区分: 指定試験事業、新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業

研究期間: 2010年~2012年

研究担当者: 山口昌宏、大山亮、大関美香、五月女敏範、沖山毅、高山敏之、飯田貴子、鈴木康夫、春山直人

発表論文等: ビール大麦新品種「アスカゴールデン」の生育・収量・麦芽品質に適した施肥量と播種量、栃木農試研報 No.72 (印刷中)